

Japan Social Innovation and Investment Foundation

Impact Review 2024

SIIF Impact Review 2024

特別対談：社会に希望の旗を立てる。SIIF が掲げる「社会改革」とは。	02
Vision / Mission / Value	05
3 つの新しい戦略 / 注力する社会課題領域	06
2024 年度における主な業績	07
3 つの社会課題領域におけるインパクトゴールと 2024 年度の活動内容	09
2024 年度の支援先一覧	11
SIIF 設立から 2024 年度までの軌跡	13
組織概要	15
財務状況	16



社会に希望の旗を立てる。SIIFが掲げる「社会変革」とは。 SIIFのこれまでとこれから、そして新戦略最終年度の2025年に向けて

2017年3月に社会変革推進財団の前身である「社会的投資推進財団」が設立されてから8年が経ちました。この間、事業内容は変遷してきましたが、「経済の力で社会課題を解決する」という志は一貫しています。ここでは、SIIF設立メンバーである専務理事・青柳光昌と常務理事・工藤七子が、これまでの振り返りと、これから向かうべき方向について語ります。

日本財団から生まれ、2019年に現在の形に

工藤：SIIFは日本最大規模の公益助成財団である、日本財団から生まれました。私たちの原点にはフィランソロピーがあります。そこから発展して、社会変革のために、さらにダイナミックな経済の力を呼び込みたい、そんな思いがSIIF設立につながりました。

青柳：2014年に日本財団内に「社会的投資推進室」を設置し、現在のGSG Impact JAPAN（当初は「G8社会的インパクト投資タスクフォース」、その後「GSG国内諮問委員会」、以下「GSG」）が始まったときから事務局を担当してきました。また独自の事業として、まだ日本に導入されていなかった、ソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）のパイロット事業に着手しました。

工藤：SIBがいよいよ神戸と八王子で本格始動することになり、それがきっかけとなって、日本財団からスピンアウトしてSIIFを立ち上げました。日本財団は助成財団なので、SIBに投資するなら別組織をつくったほうがいいという結論に至ったからです。そこから2年ぐらいいは、主にSIBの組成・出資や担い手の育成のほか、ヘルスケア・ニューフロンティア・ファンドへの出資とインパクト評価、調査レポート発行などが中心事業でした。

青柳：この頃、欧米ではすでに市場並みの経済的リターンを出すインパクト投資が現れ始めていました。

工藤：私たちも「日本で何か1つ象徴的なインパクトファンドをつくれば、それが呼び水になるのではないかと」という仮説を立てて、試行錯誤を重ねていました。日の目を見なかったプロジェクトもありましたが、2019年によく「はたらくFUND」設立に漕ぎ着けました。

青柳：同じ年に社会的投資推進財団と社会変革推進機構が合併して、現在のSIIFの基盤が整ったわけです。

20年代にインパクト投資がメインストリーム化

青柳：2020年に入った頃にコロナ禍が起き、自由な交流や外出が制限されるようになりました。このとき、世界中で多くの人が、自らの健康や幸福を振り返り「私たちの経済活動はこのままでいいのか？」と問い直したのではないのでしょうか。パンデミックは起きないに越したことはありませんが、全世界に同時期に大きな影響を及ぼしたことで、人々の意識変革を促す契機になりました。インパクト投資にとっては追い風になった一面があったと考えています。

工藤：2019年から21年にかけて、一気にインパクト

投資のメインストリーム化が進みました。2019年6月のG20大阪サミットで当時の安倍首相が「社会的インパクト投資」に言及し、2020年6月には金融庁がGSGと共催で「インパクト投資勉強会」を開始しました。そして、2021年11月に「インパクト志向金融宣言（事務局：SIIF）」を発足。このときには私たちの予想を超えて、21社もの金融機関が署名してくださいました（25年4月1日現在 総署名機関70社）。

青柳：ちょうどその頃に岸田首相が就任し、翌年あたりから「貯蓄から投資へ」というスローガンを掲げたことも大きかった。コロナ禍をはじめとする社会情勢や日本の財政状況、政権の方針など様々な要因があいまって、インパクト投資が金融の表舞台に躍り出たといえるでしょう。この間、私たちSIIFも金融庁をはじめいろんな省庁とご一緒に、微力を尽くしてきました。

工藤：インパクト投資市場がみるみる成長していく一方で、私たちは2020年頃からすでに、次の展開について話し始めていましたね。それまで5年の実践から、インパクト投資が量的に増えるだけでは、SIIFが目指す「社会変革」の実現は難しいことが分かってきたからです。

青柳：2021年にはマネジメントチームや戦略刷新チームで丸1年議論し、2022年度に新戦略を公表しました。インパクト投資から「インパクト・エコノミー」へと対象を拡大し、社会課題を生み出す構造そのものに働きかける「システムチェンジ」を目指すこととしたんです。同時に、注力する社会課題を「機会格差」「地域活性化」「ヘルスケア」の3つに決めました。

工藤：「ヘルスケア」については2023年にSIIFIC ウェルネスファンドを設立、2024年4月現在、3社に投資しています。また、「機会格差」「地域活性化」に関しては新たにシステムチェンジコレクティブ事業を立ち上げ、2024年に協働パートナー3社を採択しました。今まさに実践に取り組んでいるところです。



現場の経験を持ち帰って俯瞰し整理する

工藤：創業からこれまで、事業のターゲットは変えてきましたが、変わらないのは、常に自ら現場に身を置いて経験を積む姿勢です。SIIFとして実際にリスクを取って投資したり、起業家を支援したりしてきました。そこから得た実感があるからこそ、調査研究や政策提言のような俯瞰の仕事ができるのだと思いますし、自信を持って意見を語れます。とはいえ、実のところ「現場」と「俯瞰」の両方を手掛けるのは、なかなか大変なのですが。

青柳：最近は、省庁の審議会などでも社会起業家やNPOの人たちが意見を述べる機会が増えています。もはやSIIFの出る幕はないように思われるかもしれませんが、現場での経験をラボに持ち帰って、理論的に整理したうえで政策提言につなげるところまで、一気通貫でできるのがSIIFの特性だと自負しています。非営利の民間団体だからこそ、できることはたくさんある。営利企業や業界団体の政策提言は自らへの利益誘導と受け取られかねませんが、SIIFは純粋に国や社会のためを考えている、と胸を張れます。なおかつ、行政とも民間企業とも利害関係がないから、双方から本音が聞けるし橋渡しができる。これは希有なことです。

工藤：どうすれば社会をよりよくできるのか、そのことを仕事として純粋に追求できる。「非営利という特権」を持っているからこそ、SIIFは、道なき道を率先して進む開拓者でなければなりませんね。リスクを取って先導するのは、SIIFの使命だと思っています。

社会変革を目指して「終わりなき旅」に行く

工藤：ときに「SIIFは保守なのか革新なのか」と尋ねられることがあります。「社会変革を目指す」という意味では革新ですが、現政権ともずっと仕事をさせてもらっていますから。果たして立場を決める必要はあるのでしょうか？ 保守と革新の間は埋まらなくて当然でしょうし、とはいえ同じ社会で一緒に生きていかなければなりません。AとBを混ぜてCにすることはできなくても、AとBの両方を持っていることは、むしろSIIFの強みかもしれません。

青柳：AとBとの間で通訳ができればいいのだからと考えています。両方を行き来しながら落としどころを探すのが、SIIFの役回りでしょう。

工藤：私たちは社会変革を目指していますが、今の社会を敵視しているわけではありません。特に経済につ

いては保守の力を信じていて、だからこそ、その力を生かしてほしい、と働きかけ続けているわけです。私たちが大事にしている価値観には、ジェンダー平等やダイバーシティといった、革新に分類されるものもありますが、そのことに抵抗感を抱く人たちの気持ちがないがしろにしようとは思いません。実のところ、私たちがテーマの1つとしている地域社会には保守的な人が少なくないし、保守の考え方が持つ価値も理解できます。意見が異なる人にただ正論を突きつけても相手の心には響かないし、それでは私たちが目指すシステムチェンジにはつながりません。

青柳：理想は大事ですが、現実を一気に変えることはできません。理想は掲げて、曲げないで、でも現実はどう切り込んでいくか、あるいは取り込んでいくかを考えるのが私たちのやり方です。とはいえ、リアリストになりすぎて社会変革のアイデンティティを失ってはいけません。その塩梅は難しいですが。

工藤：SIIFの仕事は「終わりなき旅」だと考えています。「ここにたどり着いたら目標達成!」という明らかなゴールは存在しない。インパクト投資市場が何百兆円規模に成長しようとも、そのことだけで喜ぶわけにはいきません。

青柳：投資はあくまでも手段にすぎませんから。目的はあくまでも社会変革です。量や規模ではなく、質を問い続けなければいけない。

2024年に新しいバリューを策定

工藤：SIIFは2024年にバリューを更新しました。新しいバリューは「Giveから始めよう」「旗を立てよう」「まず一步を踏み出そう」の3つです。

青柳：「Giveから始めよう」は、組織の文化としてすでに定着していると思います。SIIFの成り立ちから考えれば、「生まれ持った性格」ともいえる。それは大事にしていきたいし、これからも守っていかなければなりません。課題は「旗を立てよう」と「まず一步を踏み出そう」ですね。工藤さんが言うようにSIIFが目指す「社会変革」に明らかなゴールはない。常に「正解のない問い」に向き合わなければなりません。正解がないなかで「旗を立てる」のは非常に難しいことだし、怖いことでもあります。

工藤：正解がないなかで、何かを選び取り、判断するためには、自らの価値観を磨くしかありません。「どんな世の中を望むのか」という、人としての根源的な価値観を問われるところはありますね。

青柳：旗を立てて、間違えることはもちろんあるし、ケガすることもあるでしょう。でも、そのケガの痛みを知らなければ次の旗は立てられません。実際に動いて、失敗して、検証して、を繰り返していくしかないんです。

工藤：どうせ正解はないのだから、笑われたり嫌われたりすることを恐れず、ためらわずに旗を立てる。そして、現場で行動し、経験したことをもとに、さらに自分の価値観を磨いていこう。それが新しいバリューの意味するところです。



2025年度、システムチェンジの具現化へ。

工藤：SIIFにとっての「夢」とはなんでしょう？

青柳：みんなが夢を持てる、希望を持てる社会に向かっていくことです。私たちがかわかる現場や政策提言を通して、少しずつでも。そのためには、SIIFが注力課題の1つに挙げている「機会格差」の解消が重要でしょう。今は誰もが、何かしら不安を感じている時代ではないでしょうか。将来が不透明で、明るい夢を描きにくい。自分のことでいっぱいだと、弱い立場に置かれている人たちに目を向ける余裕も持てません。この悪循環を断ち切って、人々が充足感を持ち、格差を縮めていけるような社会を目指したい。

工藤：SIIFにとって2025年度は、システムチェンジを目指す新戦略の最終年度に当たります。システムチェンジとは何かを具体的に示す、シンボリックな変化を起こさなければならないでしょう。経済を起点にして社会をよくすることができると実証する段階だと思っています。そしてもう1つ、日本とアジアの文化に立脚しながら、グローバルな貢献を目指したい。これまで欧米に牽引されてきたインパクト・エコノミーの取り組みに対して、日本からも発信し、存在感を示せるSIIFでありたいと考えています。

社会の課題解決に

インパクトとは、「未来への意志」

経済的な価値が重要視された時代は終わり、社会、環境、文化など、価値判断のモノサシが多様化している現代。私たちは企業、自治体、NPO 団体などとともに自助・公助・共助の枠組みを超えた社会的・経済的資源循環のエコシステムをつくるため、さまざまな事業を行っています。社会課題の解決と多様な価値創造が自律的・持続的に起こる社会を目指して、財団という、私たちの立場だからできることがあります。

Vision

社会課題解決と多様な価値創造が 自律的・持続的に起こる社会の礎をつくる

SIIF が目指すのは、人や地域が「それぞれの幸せ」をかなえられる包摂的な社会です。それは、人や地域がそのあり方を自ら求め、選び、創造し続けるものと考えます。

Mission

社会的・経済的資源循環のエコシステムをつくる

市場経済を中心とした自助、中央集権的な再分配システムに基づく公助、そして身近な助け合いの形である共助や互助。SIIF は、これらの枠組みを超えた資金・人材・知見などの資源の「新しい循環モデル」の構築を目指し、社会的な成果に対する多様な価値のモノサシを示していきます。

Value

- ・ Give から始めよう
- ・ 旗を立てよう
- ・ まず一步を踏み出そう

新しい経済で挑む

3つの新しい戦略（2022～2025年度） p.07「2024年度における主な業績」

インパクト・エコノミー実現に向けたシステムチェンジの実践・知見の触媒

01

事例・実績づくり

注力する社会課題領域において、実際に社会変革につながることを示すシンボリックな事例をつくる

02

実践知づくり

多様な実践から得られた学びを、「体系化した知見」として社会に示す

03

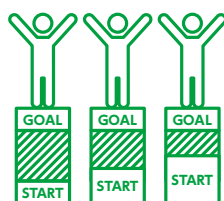
場づくり

新しい経済を志向する多様な実践者が、学び合える場をつくる

注力する社会課題領域 p.09「3つの社会課題領域におけるインパクトゴールと2024年度の活動内容」

3つの社会課題領域で具体的なシステムチェンジ、インパクトの創出を目指します。

THEME
#01



機会格差

THEME
#02



地域活性化

THEME
#03



ヘルスケア

2024年度における主な業績

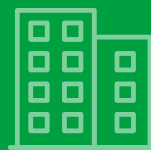
01

事例・実績づくり

注力する社会課題領域において、実際に社会変革につながることを示すシンボリックな事例をつくる

2024年度 新規支援先

5 社



伴走支援
提供社数

35 社

支援先 47 社

02

実践知づくり

多様な実践から得られた学びを「体系化した知見」として社会に示す

オックスフォード大学
サイド・ビジネス・スクールの
スクールセンターと

「10年の歩み、
日本のインパクト・
エコノミー
～事例と映像で
たどるシリーズ～」
を制作

インパクトIPO
ガイダンス

「インパクト企業の
資本市場における
情報開示及び対話の
ためのガイダンス
第1版」発行

(GSG Impact JAPAN)

03

場づくり

新しい経済を志向する
多様な実践者が、
学び合える場をつくる

Social Impact Day 2024
「インパクト・
エコノミーが実現する
“システム・チェンジ”」

参加登録者数

1,000人超



システムチェンジに関する
イベント等への登壇

国内イベント

13 件

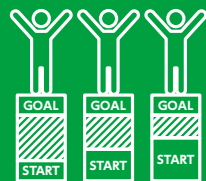
国際イベント

8 件

システム チェンジを 目指す 実践累積社数 6 社	3つの社会課題 領域における インパクト ゴール設定 4 件 ▶ 詳細は p.09 参照	 3つの社会課題 領域に関する イベント等への 登壇 7 件
システムチェンジ・ ライブラリ開設 記事公開本数 12 本 ----- システムチェンジ投資に 関する外部金融機関への アドバイザー 2 件	「日本における インパクト投資の現状と課題 -2024年度調査-」 発行 (GSG Impact JAPAN) ----- 「インパクト投資に関する 消費者意識調査」 2024 年度版公開	インパクト・ マネジメント運用原則 「Impact Principles」 署名を通じた 学びの発信 記事公開本数 2 本 
 GSG Impact JAPAN インパクト志向金融宣言 インパクトコンソーシアム (金融庁) 企画・運営支援 7 件以上	インパクト IPO 勉強会・ ワークショップ開催 4 回 	GSG Impact JAPAN、 一般社団法人 B Market Builder Japan による 「B Corp 勉強会」開催 4 回 ----- 「外部専門機関の独立検証を 活用したインパクト測定・ マネジメントの深化に 関する勉強会」開催 1 回

3つの社会課題領域におけるインパクトゴールと2024年度の活動内容

課題領域
機会格差



インパクトゴール

ジェンダーペイギャップ解消

誰もが公正に評価され、
性別や住む場所にかかわらず、
働き方と生き方を
自由に選択できる社会

課題領域
機会格差



インパクトゴール

子どもにとっての 家庭格差解消

どんな家庭に生まれても、
自らの可能性を伸ばす環境に
アクセスできる

SIIF × 株式会社はたらクリエイト



長野県上田市に拠点を置く、はたらクリエイトとの協働を開始しました。現場の女性社員や経営陣とのヒアリングやミーティングを重ね、課題構造を詳細に分析。性別役割分業意識など、根底にある要因を可視化しました。その結果、中小企業や行政との連携の必要性が明確になったため、多面的なアプローチに着手しています。具体的には、内閣府男女共同参画推進連携会議で情報共有、上田商工会議所との包括連携協定締結に加え、大企業との連携を進めています。

この取り組みは、単なる研修や意識啓発にとどまらず、企業経営や自治体施策にも踏み込み、課題の根本的な変革を目指す点が特徴です。地域におけるモデルケース創出と、それを支える社会制度の変革という、両輪の展開を目指します。

SIIF × 株式会社 AiCAN



家庭問題には多種多様な様相があり、状況は日々変化します。課題を深掘りするために、AiCANを筆頭に、子どもや子育て家庭の支援に携わるステークホルダーの方々にヒアリングを行いました。また、家庭格差問題という広い課題領域において、SIIFが取り組むべきスコープを検討し、子どもの成長プロセスにおいてどのようなあり方を目指すべきか、議論を重ねてきました。

そこから、何よりもまず、子どもが心身の危機にさらされないことを最優先としました。虐待解消に取り組む AiCANとともに、児童相談所や自治体を取り巻く環境への理解を深め、必要な支援サービスや政策を議論しています。

課題が複雑かつ流動的で、多層化していることから、レバレッジポイントの特定は難しいものの、虐待やそれにまつわる生育の課題の共通点を見出して、領域横断の連携に向けた取り組みを検討していきたいと考えています。

SIIFは現在、システムチェンジに向けた投資手法の開発を進めています。さらに、自らインパクトを創出する集団として、注力する社会課題において目指すあり方（インパクトゴール）を設定し、協働パートナーとともに実践に着手しています。

課題領域

地域活性化



インパクトゴール

地域に、
新しい「豊かさ」を残す

課題領域

ヘルスケア



インパクトゴール

日本に暮らす高齢者が
他者との繋がりの中で
いきいきと自分らしく
豊かに老いることが
できる社会

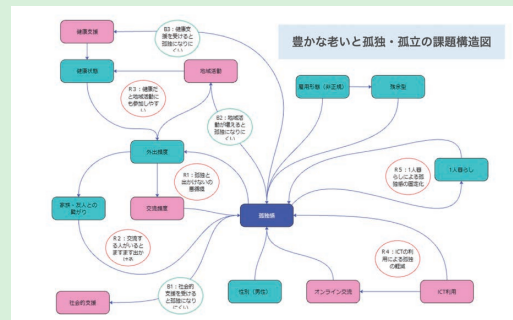
SIIF × 株式会社エーゼログループ



写真提供：株式会社エーゼログループ

地域の社会課題の根底には、人口減少に伴う自然資本・社会関係資本・経済資本の衰退があります。その解決を目指すべく、岡山県西栗倉村に拠点を置くエーゼログループとの協働を推進しています。まず、同社の経営陣や地域のステークホルダーの皆さまとヒアリングやミーティングを重ね、地域の課題構造を詳細に分析しました。「仕事／産業」「暮らし／コミュニティ」「関係性」の3つの視点から、根底にある要因を可視化しています。その結果、取り組むべきテーマを「自然資本を生かした事業づくり」と「福祉」に明確化しました。これに基づいて、「未来の里山」の拠点整備や新事業の開発を通じたシステムチェンジに着手しています。

SIIF



日本は世界一の長寿大国として知られていますが、高齢者の孤立・孤独が深刻な国でもあります。ヘルスケアチームでは、他者との繋がりの中で適切な支援を受けながら自分らしく日常生活を送り、自分が望む形で晩年を過ごせるような「豊かな老い」を目指す姿としました。

その重要な要素に「緩やかな繋がり、社会関係資本」を位置づけ、日本における高齢者の孤立・孤独の現状を分析しました。高齢者がなぜ孤立・孤独に陥るのか、どんな構造で孤立・孤独が固定化するのか、システム図を用いて分析し、介護政策の専門家、終身サポート事業者等にもヒアリングしました。今後ますます独居高齢者が増える日本で、豊かな老いを支える新たな社会システム構築に向けた施策を検討します。

2024年度の支援先一覧



株式会社 AiCAN



ココホレジャパン株式会社



アイリス株式会社 *1



株式会社 Compass *2



アドリアカйм株式会社 *1

J-Pharma

ジェイファーマ株式会社 *4



株式会社アドレス



JOINS 株式会社 *3



株式会社 Antway *2

シングルマザー
起業支援

シングルマザー起業支援



株式会社エーゼログループ



株式会社助太刀 *2



エーテンラボ株式会社



スケッター
(株式会社プラスロボ) *1



エール株式会社 *2



スタンドバイ株式会社 *3



株式会社エピグノ *1



Smart Hospital

株式会社
スマートホスピタル *1



ORTHOREBIRTH 株式会社 *4



株式会社
ゼブラアンドカンパニー



カイテック株式会社 *2



一般財団法人 地域・教育
魅力化プラットフォーム *3



株式会社キズキ *3



Trim 株式会社 *1



株式会社 CureApp *2



株式会社 HACARUS *1

 hatakuri.	株式会社はたらクリエイト	 Learning for All	特定非営利活動法人 Learning for All *3
 BPOテクノロジー	BPO テクノロジー株式会社 *2	 Life is Tech!®	ライフイズテック 株式会社 *2
 株式会社ヒューマンアルバ	株式会社ヒューマンアルバ *1	 Ridilover	株式会社 Ridilover *3
 株式会社ファーマクラウド	株式会社ファーマクラウド *1	 RENNOVATER	Rennovater 株式会社 *3
 PLUS SOCIAL Investment	プラスソーシャル インベストメント株式会社	 Rehab	株式会社 Rehab for JAPAN *1
 PROXIMAR	Proximar 株式会社 *4	 Lily MedTech	株式会社 Lily MedTech *1
HERALBONY	株式会社 ヘラルボニー	 Linc	株式会社 Linc *2
 Home-Start Japan	特定非営利活動法人 ホームスタート・ジャパン *3	 RheliXa Decoding Life, Creating Future	株式会社 RheliXa *1
 MITAS Medical	株式会社 MITAS Medical *1	 LORANS	一般社団法人 ローランズプラス *3
 UniFa	ユニファ株式会社 *2	 ONELIFE	株式会社ワンライフ *1
 ユビー	Ubie 株式会社 *2		

*1 ヘルスケア・ニューフロンティア・ファンドを介して、インパクト測定・マネジメントを提供しています *2 はたらくFUND を介して、資金及びインパクト測定・マネジメントを提供しています *3 日本ベンチャーフィナンソロピー基金を介して、資金及びインパクト測定・マネジメントを提供しています *4 SIIFインパクトキャピタルを介して、資金及びインパクト測定・マネジメントを提供しています

SIIF 設立から2024年度までの軌跡

※2022年度に策定した新戦略に基づいて、過去の事例も整理しました

— 2017年度 — 2018年度 — 2019年度 — 2020年度 —

01

事例・実績 づくり

- ・神戸市・糖尿病性腎症重症化予防ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB) 組成・出資
- ・八王子市・大腸がん検診受診率向上事業 SIB へ出資
- ・インパクト投資プラットフォーム・プラスソーシャルインベストメント株式会社へ出資

- ・岡山市・健康増進 SIB へ出資
- ・広島県広域連携型大腸がん検診率向上 SIB へ出資

- ・インパクトファンド「はたらく FUND」設立
- ・シングルマザー起業支援プログラムへ出資・参画
- ・株式会社アドレスへ出資
- ・豊中市・禁煙支援 SIB の組成・出資

- ・「日本財団ソーシャルチェンジメーカーズ」卒業生への支援事業
- ・2019 年度休眠預金等活用制度「地域活性化ソーシャルビジネス成長支援事業」
- ・新しい資源循環の仕組みづくりを研究開発する「ハルキゲニアラボ」実施
- ・ココホレジャパン株式会社へ出資

02

実践知 づくり

- ・未来投資会議などへ出席。政策提言、調査レポート発行、セミナー開催
- ・社会的インパクト評価イニシアチブ(現:社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ/SIMI)の共同事務局として「ガイドライン」「アウトカム・指標ツールセット」等を策定
- ・GSG 国内諮問委員会(事務局:SIIF)「日本におけるインパクト投資の現状」市場報告書 年次発行開始

- ・神奈川県設立のヘルスケア・ニューフロンティア・ファンドで社会的インパクト評価の支援開始
- ・「ヘルスケア・ニューフロンティア・ファンドインパクトレポート」年次発行開始
- ・国際的インパクト投資推進団体 GIIN に加盟

- ・「インパクト投資の消費者意識調査」報告書 年次発行開始

- ・Impact Frontiers 主催のインパクトマネジメント向上を目指す国際的ピアラーニングプログラムに日本から初参画

03

場づくり

- ・「社会的インパクト投資フォーラム 2018」共催
- ・中間支援組織向け SIB 研修実施
- ・「Social Impact Day 2017」共催

- ・GSG 国内諮問委員会(事務局:SIIF)にてG20開発作業部会とインパクト投資の会合を実施
- ・「ソーシャル・インパクト・ボンドセミナー 2018」主催
- ・「Social Impact Day 2018」共催

- ・GSG 国内諮問委員会(事務局:SIIF)「インパクト投資拡大に向けた提言書」
- ・「Social Impact Day 2019」共催

- ・GSG 本部主催のワーキンググループにアドバイザーとして参画
- ・GSG 国内諮問委員会・金融庁「インパクト投資に関する勉強会」共催(事務局:SIIF)
- ・「Social Impact Day 2020」協力

新戦略策定

2021年度

2022年度

2023年度

2024年度

- ・株式会社ゼブラアンドカンパニーへ出資
- ・2020年度休眠預金等活用制度「コレクティブインパクトによる地域課題解決事業」

- ・2021年度休眠預金等活用制度「地域インパクトファンド設立・運営支援事業」

- ・SIIF インパクトキャピタル株式会社設立
- ・システムチェンジコレクティブ事業開始

- ・システムチェンジコレクティブ事業において、3社を協働支援先として採択。ToC 策定
- ・3課題領域においてインパクトゴールを設定
- ・長野・上田市・地域経済の持続的発展と社会課題の解決を目的とし、上田商工会議所と包括連携協定を締結

- ・「SIIF休眠預金事業インパクトレポート」年次発行開始
- ・「成果連動型契約（PFS）/ ソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）に関する研究会」報告書（21年度・22年度）
- ・株式会社アドレスの「ADDRESS Impact Report vol. 1」発行支援

- ・「ヘルスケア・ニューフロンティア・ファンド インパクトレポート」で介護領域の課題分析の相関図を公開
- ・「インパクトIPO実現・普及に向けた基礎調査」公開
- ・「ベネフィットコーポレーション等に関する調査」公開

- ・「インパクト企業の資本市場における情報開示及び対話のためのガイダンス 草案」公開 GSG 国内諮問委員会（事務局：SIIF）
- ・ブログ連載「インパクト・エコノミーの扉」を開始
- ・インパクト・マネジメント運用原則に署名
- ・機会格差、地域活性化、ヘルスケアの3領域のビジョンペーパーとVPログを公開

- ・調査研究データベース「システムチェンジ・ライブラリ」開設
- ・「インパクト企業の資本市場における情報開示及び対話のためのガイダンス 第1版」公開

- ・「休眠預金事業支援先合同セッション」主催以降、毎年開催
- ・「インパクト志向金融宣言」発足（事務局：SIIF）
- ・オルタナティブ事業「HALLUCIGENIA Fes 2022」主催
- ・「Social Impact Day 2021」協力

- ・一般社団法人インパクトスタートアップ協会に加盟
- ・機会格差、地域活性化、ヘルスケアの課題構造マップ公開

- ・「Social Impact Day 2023」共催
- ・システムチェンジ投資の勉強会「IMPACT INVESTING FOR SYSTEM CHANGE」主催
- ・インパクト志向金融宣言署名機関数 75 社

- ・「Social Impact Day 2024」共催
- ・システムチェンジ投資勉強会・ワークショップ開催
- ・インパクト志向金融宣言署名機関数 84 社
- ・B Corp™の日本国内組織 B Market Builder Japan のオフィシャルパートナーシップに着任

組織概要

※組織概要ならびに役員などは 2025 年 3 月 31 日現在のものです



団 体 名 称	一般財団法人 社会変革推進財団 / Japan Social Innovation and Investment Foundation (SIIF)
住 所	〒107-0052 東京都港区赤坂 1 丁目 11 番 28 号 6 階
設 立 年 月	2018 年 9 月
沿 革	2013 日本財団が日本でのインパクト投資普及に向けた調査研究開始 2014 日本財団が社会的投資推進室を発足、G8 社会的インパクト投資タスクフォース（現 GSG Impact）に民間代表として参画 日本財団が GSG 国内諮問委員会（現 GSG Impact JAPAN）の事務局を担当 2015 横須賀市、尼崎市、福岡市などでソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）のパイロット事業実施 2016 社会的インパクト評価イニシアチブ（現 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ：SIMI）発足、事務局として参画 2017 一般財団法人 社会的投資推進財団設立 神戸市と八王子市で、日本初のヘルスケア分野 SIB を本格導入 2018 神奈川県ヘルスケア・ニューフロンティア・ファンドに参画 2019 新生企業投資、みずほ銀行と協働でインパクト投資ファンドを設立・運営 一般財団法人社会変革推進機構と合併し、社会変革推進財団と改称 2019 年度休眠預金等活用制度の資金分配団体に採択 2020 金融庁・GSG 国内諮問委員会（現 GSG Impact JAPAN）共催「インパクト投資に関する勉強会」開催開始 2020 年度休眠預金等活用制度の資金分配団体に採択 2021 2021 年度休眠預金等活用制度の資金分配団体に採択 SIIF の発起により「インパクト志向金融宣言」発足。金融機関 21 社が署名 2022 「インパクト IPO 実現・普及に向けた基礎調査」発行 2023 システムチェンジの調査研究を開始。ウェルネス領域のインパクトファンド設立 システムチェンジコレクティブ事業開始 2024 「システムチェンジ・ライブラリ」開設。システムチェンジコレクティブ事業において、協働パートナー 3 社を採択
理 事 長	大野 修一
専 務 理 事	青柳 光昌
常 務 理 事	工藤 七子 高石 良伸
理 事	永田 俊一 [三菱 UFJ 信託銀行信託博物館長、元預金保険機構理事長] 有馬 充美 [元みずほ銀行執行役員、株式会社西武ホールディングス社外取締役] 中島 真 [株式会社 CAMPFIRE 代表取締役 執行役員 CEO]
監 事	五十嵐 裕美子 [五十嵐総合法律事務所弁護士] 角野 里奈 [角野里奈公認会計士事務所所長、株式会社 ACCESSO 代表取締役]
評 議 員	大田 弘子 [政策研究大学院大学長、日本生産性本部副会長] 尾形 武寿 [日本財団理事長] 北川 正恭 [早稲田大学名誉教授、早稲田大学マニフェスト研究所顧問] 柴田 弘之 [信金中央金庫理事長] 高橋 陽子 [日本フィランソロピー協会理事長] 樽見 弘紀 [北海学園大学名誉教授] 堀内 勉 [多摩大学サステナビリティ経営研究所教授・所長、100 年企業戦略研究所所長、株式会社ボルテックス取締役会長]
ア ド バ イ ザ リー 委 員	杉田 亮毅 [日本経済新聞社参与、日本経済研究センター参与] 田中 明彦 [独立行政法人国際協力機構（JICA）理事長] 丹呉 泰健 [日本たばこ産業株式会社社友、元財務事務次官] 中江 有里 [女優、作家] 二橋 正弘 [自治総合センター会長、元内閣官房副長官] 磯崎 功典 [キリンホールディングス株式会社 代表取締役会長 CEO]
顧 問	坂東 眞理子 [学校法人昭和女子大学総長] 水口 剛 [高崎経済大学学長]

財務状況

正味財産増減計算書

(単位:円)

I 一般正味財産増減の部

1. 経常増減の部

(1) 経常収益

経常収益計 754,425,187

(2) 経常費用

事業費計 539,584,873

管理費計 114,274,092

経常費用計 653,858,965

評価損益等調整前当期経常増減額 . . 100,566,222

当期経常増減額 100,566,222

2. 経常外増減の部

(1) 経常外収益

経常外収益計 0

(2) 経常外費用

経常外費用計 41,867,559

当期経常外増減額 △ 41,867,559

税引前当期一般正味財産増減額 . . 58,698,663

法人税、住民税及び事業税 70,000

当期一般正味財産増減額 58,628,663

一般正味財産期首残高 112,425,849

一般正味財産期末残高 171,054,512

II 指定正味財産増減の部

休眠預金等交付金 19,372,192

受取民間助成金 484,190,000

受取補助金等計 503,562,192

受取支援金 0

特定資産評価損益等 △ 22,300,100

一般正味財産への振替額

一般正味財産への振替額 △ 685,873,655

当期指定正味財産増減額 △ 204,611,563

指定正味財産期首残高 2,016,410,537

指定正味財産期末残高 1,811,798,974

III 正味財産期末残高

1,982,853,486

2024年4月1日から2025年3月31日まで

貸借対照表

(単位:円)

I 資産の部

1. 流動資産

流動資産合計 223,868,238

2. 固定資産

(1) 基本財産

基本財産合計 10,000,000

(2) 特定資産

事業運営平衡基金 30,000,762

社会変革推進事業基金 467,700,258

社会変革事業資産 214,534,520

休眠預金事業資産 87,110,761

ジャパンベンチャー

フィランソロピー基金 39,844,000

基金等準備金 91,030,000

有価証券 852,782,074

退職給付引当資産 30,961,000

什器備品 432,670

建物付属設備 6,253,327

敷金 27,156,480

特定資産合計 1,847,805,852

固定資産合計 1,859,906,852

資産合計 2,083,775,090

II 負債の部

流動負債合計 69,960,604

固定負債合計 30,961,000

負債合計 100,921,604

III 正味財産の部

1. 指定正味財産

休眠預金等交付金 40,684,883

民間助成金 1,573,087,854

支援金 200,038,000

有価証券評価損益 △ 2,011,763

指定正味財産合計 1,811,798,974

正味財産合計 1,982,853,486

負債及び正味財産合計 2,083,775,090

2025年3月31日現在

一般財団法人 社会変革推進財団

Japan Social Innovation and Investment Foundation (SIIF)

〒107-0052 東京都港区赤坂 1 丁目 11 番 28 号 6 階

TEL 03-6229-2622 | FAX 03-6229-2621 | MAIL info@siif.or.jp

<https://www.siif.or.jp>